知りたい！秋田のとっておき 03

〈秋田市〉ガラス工芸作家 鎌田祥子 硝子工房「窯硝」代表
秋田市寺内油田2-1-53 TEL:018-838-0707
http://www.kamasyou.com/

ものづくりにかける情熱が夢を実現 美短出身の女性ガラス工芸作家

ガラス工房「窯硝（かましょう）」は、秋田市寺内の旧国道沿い「みそのクリニック前」バス停近くにある。

オーナーは秋田公立美術工芸短期大学（以下、美短と表記）出身の鎌田祥子さん。ガラス工芸作家でもある栗田保久氏（現・筑波大学教授）に学び、卒業後は教務補助として、後任の小牟禮尊人准教授をサポート。その後独立し、平成17年4月に工房を開設。*キルンワークと呼ばれる手法での創作活動を行っている。作家としてのキャリアはまだ浅いが、既に数多くの展覧会等で入賞を果たすなど、ガラス工芸作家のホープとして注目される一人でもある。

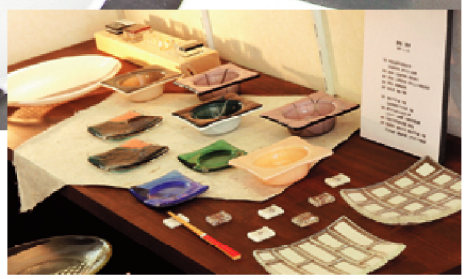
小さい頃からものづくりに興味があり、美短に進学した鎌田さん。入学当時の希望は陶芸コースだったのだが、入学後に行われたオリエンテーションでガラス工芸に一目惚れ。迷うことなく2年生からの専攻科目としてガラスコースを選択するのであった。「ガラス器作りの現場を見たのが初めてだったので、最初の出会いはかなり衝撃的でした。普段見ているガラスって硬い物じゃないですか。ところが熱くてドロドロ溶けているガラスは変幻自在。どんな形にも作ることができるんですよ。そんな素材を相手にものづくりをしていることに心惹かれました。もう即決でしたね」。

独立にあたり、県外で経験を積むという選択肢もあった。しかし、一日も早く自分の求める作品作りに没頭したかったこと。秋田の人々にガラス工芸の素晴らしさ、楽しさを広めたかったこともあり、地元秋田で活動することを決意。

県の創業支援補助金の交付申請等、資金調達も自らの手で行ない夢を実現したのであった。

「美短は東北・北海道で唯一ガラス工芸コースを開設する美術系短大なんですが、当時の秋田にはガラス工房がひとつもありませんでした。他地域に比べガラス工芸と縁が薄い秋田で、『私の工房は成り立つのだろうか』という不安はいつもありました。活動を開始して3年目、その後、県内で活躍するガラス工芸作家の方も増え、ものづくりに関する理解度も深まってきたことを実感します。しかし、その一方で、芸術性の追求と工房の経営という相反するベクトルの矛盾にめげそうになることもあります」と鎌田さん。

芸術性、作品性を追求しつつ、工房を維持するために、お客さん受けのいい作品、デザインづくりに没頭する自分の姿に、一瞬「ドキッ」とすると言うのだ。作家を目指しながら個人事業主でもあるがゆえの悩みでもあるが、開設当初の資金集めに始まり、直面する悩みや苦しみにも常に前向きに生きようとする鎌田さん。その推進力の源は鎌田さんが小さい頃から抱き続けてきた『ものづくり』にかける情熱の深さ。その信念があったからこそ、現在の活躍があり、ピュアで透明感のある作品が生まれるのである。



▲工房にはギャラリーも併設。鎌田さんの作品はもちろん、他の作家の作品も展示されている。

あきた企業活性化センター 支援事業のお知らせ

ビジネスインキュベーション総合支援事業（創業支援補助金）
新規創業する方に最高200万円を補助

県内に事業拠点を置き、優れたビジネスプランにより創業する方に対し、創業に要する経費と新規雇用に要する経費の一部を補助します。

［補助対象経費］
●事業拠点費、人材育成費、宣伝広告費
補助対象経費の1/3以内で100万円が上限
●人件費
補助対象経費の1/2以内で100万円が上限
［募集受付期間］
第3回／12月3日（月）～1月7日（月）
募集受付期間前であっても、計画書作成等に関する相談は随時受け付けています。

(財)あきた企業活性化センター
秋田市山王三丁目1-1
創業・経営革新推進担当
TEL.018-860-5702
FAX.018-863-2390
営業統括グループ
TEL.018-860-5609
FAX.018-860-5704

*キルンワークkilnwork　鎌田さんが取り組んでいるのは、電気炉（キルン）の中で、ガラス板やガラスの粉を石膏の型に合わせて焼成する手法。完成模型を粘土で作り（雄型）、耐火石膏で雌型を形成。そこにガラス粉やガラス板を置き600～900度の熱を加えて焼成。冷却後は研磨機などで余分な部分を削り完成する。ほかに、サンドイッチのようにガラスとガラスの間に別素材を挟み込んだり、一部分を湾曲させたり、さらには、型にガラスを鋳込んだりと多彩な表現方法がある。

●秋田県産業経済労働部商工業振興課 TEL.018-860-2246

企画■(株)エポックコミュニケーションズ　制作・編集■(株)あきたタウン情報